

の「友の会」との交流を計画している。

## V. 結語

今年度以降も、患者さん自身の自己管理継続をサ

ポートしていけるように主治医，看護師，患者さんと共によりよい患者会にしていきたいと考えている。



# 手術室における地震防災訓練を実施して

手術室 山本真実 成岡靖子 増田さかゑ

## I. はじめに

東海地震をはじめとする大災害について連日のように報道されている。当手術室では、地震防災マニュアルが1991年に作成されていた。しかしそれについての訓練を行ったことはなかった。そこで大地震の発生を想定し、シミュレーションを行い、既存のマニュアルの再検討をした。その結果スタッフの意識の向上にもつながり、今後の課題を明確にすることができたので報告する。

## II. 目的

従来の防災マニュアルを検討。  
新マニュアルに沿ってシミュレーション。  
実施後の感想、問題点をスタッフで検討し、マニュアルを作成。  
各部屋に掲示し、意識の定着を図る。

## III. 結果と改善策

### 1. 伝達

師長からの伝達が聞き取りにくいいため、伝達前に必ず笛で合図後、メガホンを使用。  
帰室の際、病棟の状況把握ができなため、連絡を師長又はクラークが行う。  
各部屋及び避難経路の被害状況が把握できなため、師長が各部屋の状況把握、避難経路は看護助手が見廻り、師長に報告。

### 2. 処置

外廻り看護師の役割が多すぎるため、応援が来るまで、適確な行動ができるようマニュアルは優先順に記載。

ガーゼ、器械カウントは場合により目視のみで閉創、その後X-P確認とする。

アンビューバック確保に混乱をきたすため、定位置と各部屋の分担基準を決める。

### 3. 危険防止

ガラス戸棚が破損し、物品の散乱防止のため、飛散防止フィルムと補助金具の検討、物品トレイの軽量化を行う。

ヘルメットの定位置を、各部屋に分散するよう検討する。

### 4. 避難

建物の損壊により、ドアの開閉ができなくなることを考え、第一にドアを開ける事を意識づける。  
夜間及び未使用の部屋は、常にドアを開放しておく。

### 5. その他

非常持ち出し袋の見直し。

## IV. おわりに

手術室における防災訓練を行うことで、マニュアルを改定できた。今後も患者と自分自身の安全確保の為に、定期的に訓練を行い、冷静で迅速な救護活動が提供できるようにしたい。